

第 50 回秋季大会部会シンポジウム 活動報告書

オーガナイザー：山本 徹也 (名古屋大学)・武井 孝行 (鹿児島大学)・渡邊 哲 (京都大学)

2018 年 9 月 18-20 日の 3 日間、材料界面部会シンポジウム「材料・界面討論会 ～材料創製と界面現象の新展開～」を開催した。口頭発表部門では、招待講演 2 件を含む 40 件の発表が行われた。発表件数が昨年度より多く、三日間フルに時間帯を活用した。

招待講演者として学側より鹿児島大学 二井 晋先生を、産側より YEJ ガラス株式会社 太田 明宏様をお招きし、ご講演いただいた。二井先生には、「分離における界面の積極的な制御」という題目で、超音波技術を駆使した気液界面における物質移動、連続向流泡沫分離操作についてご紹介いただいた。効率の向上には界面積を拡大することが重要であることを解説いただいた。太田様には、「ガラス封止材のアプリケーションと今後の展望」という題目で、鉛フリーガラスの開発経緯、ガラス板の曲げや穴開けといった加工技術についてお話しいただいた。今後、医療分野への展開も期待される。また人との縁、繋がりがイノベーションに発展することを再認識できた。

一般講演は、これまでの部会シンポジウム通り、講演 12 分、質疑 8 分という討論を重視するスタイルを踏襲した。質問者らの鋭くもあたたかい視点が発表者に届いたと信じたい。

ポスター部門は、大会二日目 (9 月 19 日) の 9:10-11:10 に実施した。昨年度から、二日目の午後に実施するスタイルに変更している。発表件数は 69 件で、そのうち学生が発表する 68 件の中から優秀ポスター賞を 6 件、以下の通り選出した。

石井 理子 (東京工業大), 山本 翔太 (神戸大), 林 実樹 (佐賀大)
仲谷 郁哉 (京都大), 加藤 佑紀 (関西大), 黒田 昂太郎 (東北大)

ポスターセッション後には、例年通り、軽食 (というよりも栄養満点でボリュームたっぷりの食事) を用意した交流会を開催した。ほとんどのポスター発表者と関係教員にご参加いただくことができた。

来年度は APCChE2019 開催のため、次のシンポジウムは 2020 年秋に行わ

れる。それまで十分に時間があるので、今後の改善案について部会内で十分な議論を交わしたい。

最後に口頭発表において座長をお引受けいただいた先生方、ポスター審査をお引受け頂いた先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

文責：山本